

【8 浸出水調整池】

- 浸出水調整池は、降水量により変動する浸出水を一度貯め、浸出水処理施設の処理能力（1,300m³/日）を超えないように調整する、あるいは水処理施設の運転を適正に維持するために量を調整する施設です。
- 本埋立地では、全体の埋立面積が約 11 haと大きいことから、1 期、2 期前半と後半の 3 段階に分けて段階的に造成し、順次埋め立てを行う計画です。
- 埋め立てを終了した区域は、最終的な覆土を施す必要がありますが、本埋立地では、ごみの上に雨水を通しにくい難透水性のシート等を組み合わせるなど、キャッピング構造とした最終覆土を実施することにしており、埋め立てが終了した区域からの浸出水の発生を大幅に削減することになっています。
- こうした対策を実施した上で、浸出水調整池の調整容量は、表-1 のとおり、過去 30 年以上の降雨パターンの中で必要となる調整量を積算し、1 か月で 1,000 mm級の降雨量に対応できる、24,600m³を確保しています。
- また、浸出水処理施設の処理能力を維持するために、常時約 1,000m³を貯留することにしており、これを含めて調整池の容量は全体で約 25,600m³です。

表-1 浸出水調整池容量算定に用いた降雨データなど

最終処分場の存在する地域の気象台や測候所	国土交通省 湯来
シミュレーション対象期間	30 年間以上 [1980 年～2015 年]
調整容量が最大となる降雨パターン	昭和 60 年(1985 年) 6 月 21 日～7 月 20 日 : 941 mm/月
降雨データの補正（現地特性による補正）	10%の増分 (1,035mm/月)
浸出水処理能力	1,300m ³ /日
浸出水調整池の調整容量	約 24,600m ³ （計算値約 23,900m ³ ） （水処理用の貯留容量約 1,000m ³ を含め 全体容量は約 25,600m ³ ）

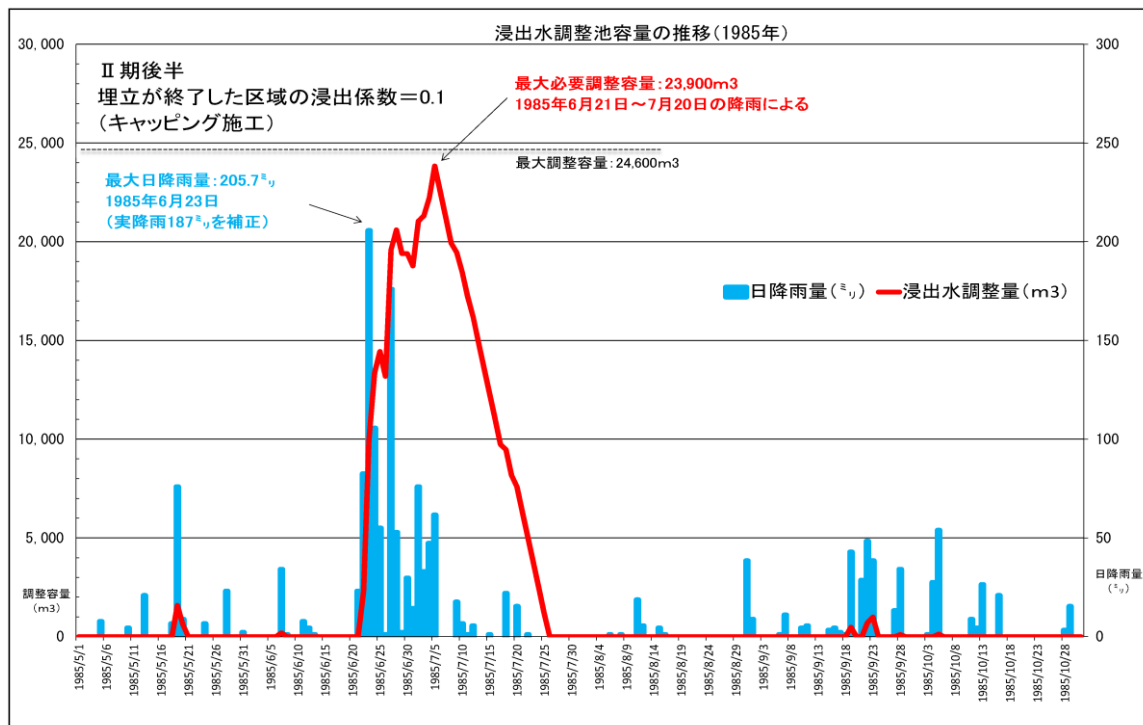


図-1 浸出水調整池の容量 (1985 年のシミュレーション結果)

- 浸出水調整池の内面には、遮水の安全性を高めるため、埋立区域と同様の遮水シート (突起付き、厚さ 2.0mm) を図-2 のイメージの様に敷設 (コンクリートと一体化) することとしています。



図-2 浸出水調整池の遮水工 (イメージ)